

<家庭数配布>



芝山小だより



3月号
清瀬市立芝山小学校
校長 寺井 俊敬
<http://www.kiyose.ed.jp/>

「共に学び合う姿」

教務主任

感染症拡大防止による全国一斉臨時休校から丸二年が経ちました。ただ、昨年度とは異なり、令和3年度の教育活動は、感染症拡大防止のために急速に推進されたICTの活用により、新たな試みに挑戦する一年となりました。

久しぶりに校庭で間を開けて整列しながら実施することができた1学期始業式以外は、例年と異なる方法で教育活動を進めていくこととなりました。クラスごとに分けて行った入学式、リモートで実施した離任式や児童集会など、その時の状況に合わせて工夫しながら教育活動を進めてまいりました。一つ一つの行事や学習活動において、様々な場面で「例年通り」ではなく、子供たちにとってどのような教育的価値がある活動であるか、どのような方法が現状に適しているかなど、改めて教育活動を見直す機会にもなりました。

今年度は、教職員にとってICTの活用をどのように推進していけばよいのか、試行錯誤の日々が続きました。授業では、教職員も子供たちもchromebookの活用に奮闘しました。職員室では、「子供たちに使い方を分かりやすく指導するにはどうしたらいいか。」「子供たちに見せたい教材をどのように映し出すと効果的か。」など毎日教員同士で情報交換を行い、教員同士が**学び合う姿**がありました。一つでも具体的な指導法を見つけた教員はすぐに周りに教え、多くの教員が真剣に聞き入り、実践を通して学びました。

そして、chromebookの使い方を次々と覚えていく子供たち。共に学びを進めてきた芝山小学校の教室では、ICT活用の推進や子供たち同士が**学び合う姿**が増えたことで、教科等における学び方の幅が広がり、互いの考えや意見を認め合う態度や協働的に学びを深める力を身に付けることに繋がりました。調べ学習では、自ら課題をもって解決策を調べたり考えたりする機会が増えました。スライドを活用した発表では、子供たちが自分の考えをより分かりやすく相手に伝えようと工夫する姿が見られました。「先生、こんな使い方もできるみたい。」「このボタンを押せばできるのではないかな。」など、子供たちが先に発見することも多く、教師と子供たちが**共に学び合う姿**もたくさん見られました。大人も子供も電源の入れ方から始まり、今では様々なアプリケーションを使いこなして学びを深めています。

このように、私たち教職員は、試行錯誤の日々を経て、新しいことに挑戦することの大切さ、現状に落ち着くことなく常に学ぶ姿勢をもつこと、改善していくことの大切さなどについて、改めて強く感じた一年となりました。

全面オンライン授業や様々な行事等の変更において、保護者や地域の皆様のご理解・ご協力を賜りましたこと、深く感謝申し上げます。保護者の皆様にお会いする度に、「先生たちも大変ですね。」「体調に気を付けてくださいね。」とねぎらいの言葉をかけていただき、心温まる瞬間が幾度もありました。本当にありがとうございました。

今年度も残すところあと一ヶ月となりました。これからもさらに子供たちにとって学習が「わかる」「できる」と感じる授業作り、子供たちが安心して通うことができる学校作りを教職員一丸となって取り組んでまいります。今後とも本校の教育活動についてご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。